



平成21年1月14日

お酢の力で胃癌の診断能アップ

概要：岡山大学病院光学医療診療部 河原祥朗助教のチームは、お酢（酢酸）の作用を利用した、胃がんを従来より正確に診断できる新技術を開発し、1月8日、日本消化器内視鏡学会英文誌に発表しました。この新技術を用いると、従来の方法に比べ内視鏡（胃カメラ）で病変が明瞭に描出されるため、内視鏡治療前の範囲診断能力の向上や、小さな病変の発見率の向上が期待されます。

<本文>

岡山大学病院光学医療診療部 河原祥朗助教のチームは、早期胃癌に対する内視鏡診断法として、お酢（酢酸）の作用を利用した新たな色素内視鏡法を開発しました。この色素法を用いた場合、従来の方法に比べ病変が明瞭に描出されるため、内視鏡治療前の範囲診断や小さな病変の早期での検出に効果が期待されます。

この発明に関しては、岡山大学知的財産本部を通じて特許出願中でしたが、このたび科学技術振興機構（JST）の海外特許出願支援制度の支援対象に選ばれ、アメリカ、ヨーロッパなどに特許出願することになりました。

同チームでは、今後、この新技術の製品化を目指して研究・開発を進める予定です。
※詳細については別添資料をご覧ください。

<お問い合わせ>

岡山大学病院
光学医療診療部・河原祥朗
(電話番号) 235-7219
(FAX番号) 225-5991